## 一 忙 筆 中

## 人、酒を飲み酒、人を飲む

## 佐 野 法 充

を請け合いをしてしまった。 を請け合いをしてしまった。テーマは何でもいい、締切まで時間もある、は何でもいい、締切まで時間もある、は何でもいい、締切まで時間もある、半の党務に忙殺されている毎日なので、学の党務に忙殺されている毎日なので、がではいつもご苦労を掛け、そのおれに旨い日本酒を飲ませるとの約束もれに旨い日本酒を飲ませるとの約束も果たせないでいる弱みもあって、ついというでは、 要請け合いをしてしまった。

かと思い悩んでいたとき、たまたま前では芸がない。何か適当な題材がない後悔先に立たずだ。政治向きの話し

とんだ醜態だった。とまれ、

酒の約束

酔っぱらって見せた訳ではあるまいが、

でとんでもない失態を犯してしまったでとんでもない失態を犯してしまったという報道が飛び込んできた。クリスチャン・アドルフというアメリカの生理学者の発見によれば、酔っぱらいは「東へ向かう」習性をもっているという。酔っぱらった人間を、例えば体育ら。酔っぱらった人間を、例えば体育ら。酔っぱらった人間を、例えば体育でが東の方向に進んでいくものなのだくように命ずると、十人のうち八人までが東の方向に進んでいくものなのださわざ西の方に行って、東に向かって

から酒の話しを書くことにする。を書かざるを得ない羽目になったのだを反故にした報いで、このような駄文

 $\wedge$ 

飲み過ぎが災いしたのであろう。した。大変お酒好きの人なので、酒のき合いのある先輩が肝臓を患って入院年が明けてまもなく、親の代からつ

「肝心要」という言葉があるように、「肝心要」という言葉があるように、おっていたが、身近な人が入院すると括っていたが、身近な人が入院するとなってくる。か細い声で「お前も気をなってくる。か細い声で「お前も気をつけろよ」と言って苦笑した先輩の声がやけに痛々しかった。

なって肝臓に宿るという肝臓説に取っいるときは肉体に宿っていると考えていた。こうした考えは、エジプト王朝の時代には、霊魂は心臓に宿るというの時代には、霊魂は心臓に宿るという



それにしても、肝臓は大変な働き者の重要性を感じていたのであろう。な時代から人類は、これら臓器の存在て代わったという。医学が全く未発達

それにしても、肝臓は大変な働き者である。ブドウ糖をグリコーゲンに変えて貯蔵し、必要なときにブドウ糖に 変えて放出する代謝作用。また、人体 に有害なものを毒のないものに変える 解毒作用。その他血液のコントロール・ 解毒作用。その他血液のコントロール・ がら かっの精密工場の如く、これらの機体の中の精密工場の如く、これらの機体の中の精密工場の如く、これらの機

いる。清酒一合、ビール一本、水割り器を、知らず知らずのうちに酷使してわれわれ酒飲みは、この働き者の臓

にしなければならない。 霊魂は肝臓に宿るという思想の流れで なる。 時間、 臓がアルコール分を完全に分解するの あろうか。 歓び」という表現を使って呼ぶという。 実に二日酔いに悩まされることになる。 にもなれば、 杯飲んですぐ寝たとしても、その後八 ダブル一杯、このどれを飲んでも、 アラブの人は友人のことを「肝臓の 一時間もかかる。 調子にのって深酒をし、午前様 肝臓は働きっぱなしということに 友人同様、 天罰てきめん、翌日は確 水割りダブルを四 魂の住処も大切 肝

^

ある。
は、心にしみる、何ともきつい教えでい酒飲みにはなるな」。今にして思えには身につかないものだ。だらしな

「酒は百薬の長」とも言うが、「酒は諸悪の基」という格言もある。また、「一杯、人、酒を飲む。二杯、酒、酒を飲む。三杯、酒、酒のもある。耳痛い言葉だが、度が過ぎのもある。耳痛い言葉だが、度が過ぎれば効用も毒に変わるという戒めである。

作家の邸永漢さんは、「健康こそ来る、近いうちに必ず解散・総選挙がある。近いうちに必ず解散・総選挙がある。政権交代を賭けた天下分け目の決もとなる。何としても勝利しなければならない戦いだ。そのためには、渾身の気合いをもって闘い抜かなければならない。渾身の力を支えるものこそ健身である。

へさの のりみち・北海道議会議員